



発行

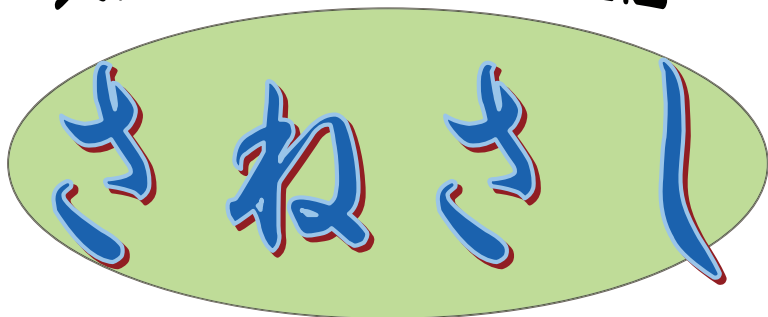
平成28年3月12日

相模原市文化財調査・普及員

広報グループ

文化庁指定
文化財愛護
シンボルマーク

両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの



～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

笹野家の建造物が国登録有形文化財に！

相模原市内には文化財の長屋門が5件あります。そのうち、緑区には3件です。その中の一つが緑区上九沢にある市登録有形文化財（建造物）の「笹野家の長屋門」です。平成27年11月17日付けで、この長屋門が国登録有形文

化財（建造物）の「旧笹野家住宅長屋門」として登録されました。

写真①
長屋門



加えて母屋も同様に「旧笹野家住宅主屋」として登録されました。この笹野家は梅宗寺ばいそうの北側で、鳩川沿いに所在します。江戸時代に旧上九沢村の名主をつとめ、屋号をヤマクと称したと言われます。敷地内には土蔵の横に井戸が

掘られ、稲荷社や御嶽神社も祭られています。

写真②
主屋



長屋門は江戸末期に建築された中規模（桁行 11.8m、梁行 3.6m、軒高 3.6m）の建物です。軒は船檣セガイ形式で深いです。戸口の柱や扉は檜が使用されていますが、他は杉

目次

- ・ 笹野家の建造物が国登録有形文化財に！ …… P 1
- ・ 勝坂遺跡公園で歴史や自然を楽しく学んでみませんか …… P 2
- ・ 相模おぬの小野と弟橋おとたちばな比売命 …… P 3
- ・ 藤野村歌舞伎 …… P 3
- ・ 慰霊塔公園から大沼、大野台を巡る …… P 4



材です。現トタン板の屋根は以前、茅葺きだったそうです。

主屋は江戸末期に建築され、明治2年（1869）に長竹村から移築されました。規模は桁行 17.3m、梁行 9.4mです。構造形式は寄棟造、平入、六間取りの養蚕農家の特徴があります。現瓦葺きの屋根は以前、茅葺きだったそうです。正面に銅板葺きの庇があり、船檣形式で深いです。



（注）外からの見学のみ可能です。敷地内への立ち入りは出来ません。

（北部班 駿河）

勝坂遺跡公園で歴史や自然を楽しく学んでみませんか

勝坂遺跡公園（以下「公園」）は、国の指定史跡である縄文時代（約 5,000 年前）の勝坂遺跡とそれに隣接する有鹿谷やとからなっており、どなたにも、太古の歴史ロマンに思いを寄せ、また残された豊かな谷戸の自然を体感して頂ける場となっています。

文化財調査・普及員が構成員である「勝坂遺跡活用実行委員会（以下「当委員会」）」は、相模原市から委託を受けて、市民の皆さんに公園及び管理棟で学び楽しんで頂ける行事や活動を行っています。

まず、毎月第 2 日曜日の午前中に行う行事です。身近な考古学に関する講演会、お子さんにも人気の縄文体験（土器、石器、土笛、勾玉や縄文服などの手作り）やネイチャー・ゲーム、公園内に残された貴重な自然（花木、草花、野鳥、昆虫、水生生物、地層など）の観察、それに公園周辺の歴史・文化財の探訪などです。各月の行事の予定・内容は、広報さがみはらの毎月 15 日号に掲載されます。

次に、公園の復元住居などのご案内です。上記の行

事実施日の午後は、1時から3時半まで係員が管理棟で待機してご案内しています。

さらに、毎年 11 月 3 日文化の日には「勝坂遺跡縄文まつり」が行われます。これは当委員会を含めた有志団体が構成される「勝坂遺跡縄文まつり実行委員会」が実施しています。昨年は 700 人以上の皆さんにお楽しみ頂きました。

（勝坂遺跡活用実行委員会 茅野）



公園内での案内の様子（熱が入っています！）

おぬ おとたちはなひめのみこと 相模の小野と弟橘比売命

東南班は定例会で『古事記』の原文を講読しており、倭健命やまとたけるのみことの東征で相模国さがみのくにに到るところです。ここは倭健命が火攻めに遭うところから弟橘比売命の入水という東征のクライマックスが記されています。

倭健命は相模国くにのみやつこの国造に欺かれ、大沼のほとりで火攻めに遭い、叔母の倭比売命やまとひめのみことから賜った草薙の剣で草をはらい、袋の中の火打石で向火を焚き、難を逃れます。そこから房総に渡るため船で走水の海（浦賀水道）にかかると、海峡の神に荒波を立てられ船は進むことが出来ません。この時とき後の弟橘比売命は

《さねさし相模の小野に燃ゆる火の
火中に立ちて問ひし君はも》



吉屋信子書の歌碑

の歌を詠み、海の神の怒りを鎮めるため自ら海に身を投じます。これにより荒波は止み船を進めることができました。

この弟橘比売命の歌碑が「相模原ゴルフクラブ」にあるということを知り、特別に今年の 1 月 22 日に見学させていただきました。相模の地ゆかりのある古歌を会員である作家の吉屋信子よしかが書き、開場記念として建てられたそうです。

また、「さねさし」はこの弟橘比売命の歌がその由来と、創刊号に書かれています。

（東南班 佐藤）



歌碑の前で記念撮影

藤野村歌舞伎

平成 18～19 年にかけて、相模原市は、城山町・津久井町・相模湖町・藤野町と合併し、新相模原市となりました。そこで藤野地区で古くから地芝居(村歌舞伎)が上演されていることが広く知られるようになりました。

では、元禄年間(1688～1703)江戸庶民の文化として華開いた歌舞伎が、いつごろ藤野地区に伝播し、庶民の間で演じられるようになったのでしょうか？

当時の神楽殿舞台が残っている上岩地区の石楯尾神社、鎌沢地区の八幡神社の建造月日から、幕末から明治にかけてと思われます。江戸で流行した歌舞伎は瞬く間に地方へ流れ、地方巡業で訪れた歌舞伎役者の舞台を観た者が一座に加入し修業したのち、地元にもどり人々に教えたことから地芝居として演じられるようになりました。

藤野地区で娯楽として演じられていた歌舞伎を大きく発展させたのは、大正初期に本職の歌舞伎役者尾上男女蔵が佐野川の鎌沢地区に定住したことによります。地域住民は男女蔵の指導で、本格的な歌舞伎の所作や台詞を身に付け、地方巡業に廻るほどになりました。篠原地区にも竹内佐助という師匠が出現しています。

地域の一大行事となった村歌舞伎も、戦争の影響で人材不足に陥り継続困難となってしまいました。役者はもちろん舞台・衣装・化粧までも地域の人々により作られていたからです。戦後も上演されることはほとんどありませんでした。

昭和 40 年(1965)に1回復活公演されたのを最後に途絶えた藤野村歌舞伎を復活させるキッカケは、「藤野ふるさと芸術村構想」でした。かつて藤野村歌舞伎にかかわった人々を中心に復活の気運は高まり、平成に入ると村歌舞伎の保存・伝承を目的に「藤野村歌舞伎保存会」を発足させ公演にむけて活動を始めます。役者は男性だけでなく、地域の小・中学生・その両親を取り込み、演目も子供むけを多くするなど工夫されました。多くの人々が参加・協力し、平成 4 年以降毎年公演されるようになりました。

津久井班のメンバーは昨年 10 月 3 日「藤野芸術の家」での 24 回目の公演を観ることが出来ました。演目は「仮名手本忠臣蔵七段目・祇園一力茶屋の場」と「子ども白波五人男・稲瀬川勢揃いの場」です。座長の口上から始まり、演者の紹介を経て幕が開きます。義太夫の朗朗とした声が場内に響きわたり、一瞬で空気が変わりました。拍手喝采のなか「忠臣蔵」が終了し、「子ども歌舞伎」に移ると場内の雰囲気は又々大きく変わります。あちこち声援がとび、数ヶ月間練習を積んできた子供達は、大人顔負けの役者ぶりを発揮していました。

おひねりも飛び熱気が残るなか、公演は終了しましたが、公演の数日前に舞台装置の組み立て作業を見学していたので、公演の大成功の裏には役者だけでなく、下座・照明・音響・舞台監督など、表に出ない人々の力も大きいと感じました。それ以上に子供達の熱演をもっと多くの人々に観てもらいたいと思った一日でした。

(津久井班 久能)



仮名手本忠臣蔵七段目



子ども白波五人男

慰霊塔公園から大沼、大野台を巡る



①奠営訓示碑



②大沼神社

今回は東部班のエリアである古淵から大沼、木もれびの森、大野台の自然と史跡、文化財の紹介をします。

古淵駅からイトーヨーカドーを抜けて国道16号を南警察署前の慰霊塔参道に至ると、左側に地元出身の政治家「岩本信行君の像」(吉田茂謹書)と当時の県知事内山岩太郎氏による「顕彰碑」があります。立派な参道を抜けると慰霊塔公園(図①)です。かつての軍都相模原を象徴する「相模忠霊塔」が建立されたのは昭和18年(1943)8月で、戦後の昭和27年(1952)7月に「相模原町慰霊塔」として今日に至っています。左側には平成27年4月1日に市によって登録された文化財である移設の旧陸軍電信第一連隊の「奠営訓示碑」があります。これは電信第一連隊川村連隊長の撰文により昭和14年(1939)2月1日に大野村の連隊施設内に建てられた石碑です。

慰霊塔公園から森を抜けていくと「大沼弁財天 現大沼神社」(図②)です。祭神は市杵島姫命いちきしまひめのみことで大沼新田開拓の地域の守り神として地域の人々に継承されてきました。神社にある「大沼水田記念碑」には昔このあたりが大きな沼だった頃、大雨や旱魃かんぼつ等で水田耕作が難しく、また戦後の食糧増産時に水田が開かれ、その後宅地化で消えていった経緯が記されています。

大沼神社から西大沼2丁目と3丁目の間の道を通り、信号を渡って大野台中の横を過ぎると木もれびの森です。中央の芝生広場脇の緑道沿いに文化財の「畑地灌漑用水大野支線」(図③)が一部当時のまま残っています。これは戦後の食糧難解消農業振興として、相模ダム下流の久保沢分水槽を水源とした大和市、綾瀬市、藤沢市に至る、16年の歳月をかけ昭和38年(1963)に完成した灌漑用水の跡です。次に森を出てしばらく行くと、大野台第二児童館敷地内に神奈川開拓団の昭和22年(1947)1月8日入植の「開拓記念碑」(図④)があります。戦後の開拓の先人の苦労が偲ばれるものです。さらに歩を進めていくと、大野台中央小左側にあるのが「大野台御嶽神社」(図⑤)です。沿革に依れば昭和22年(1947)に淵野辺本町の皇武神社こうぶから分神されご神体は日本武尊です。大野台開拓の住民のよりどころの氏神になってきたものです。ここからバスで古淵駅に戻れます。このコースは春秋の時候の良い時、森の緑に浸り、新田開発や開拓の苦労を偲び、軍都だった相模原を想い、戦後の発展を回顧する絶好の散策になると思います。約3時間のウォーキングです。是非お出かけ下さい。

(東部班 佐藤)

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371